【2024年11月 月間予定表 ―椚辻北校― 】

１１月の予定		
1	金	
2	土	土曜特訓〈中３A 国語/B 理科〉
3	日	
4	月	
5	火	
6	水	
7	木	休校日
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	
12	火	
13	水	
14	木	休校日
15	金	
16	土	「定期テスト攻略講座」（大宅・山科中対象）
17	日	「定期テスト攻略講座」（大宅・山科中対象）
18	月	●進路相談会開始
19	火	
20	水	
21	木	休校日
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	休校日
29	金	
30	土	▼土曜特訓〈中３A 社会/B 国語〉

※諸事情により予定を一部変更する場合があります。

【9月度のMVP】

「二学期中間テスト結果」より…

●中学２年生　T.Y. くん

前回テストより、５科合計で **50 点**アップ！

●中学２年生　K.O. さん

前回テストより、５科合計で **61 点**アップ！

●中学３年生　R.H. さん

前回テストより数学が大幅に上昇。自己最高の **88 点**を記録！

１１月行事について

●進路相談会

いよいよ中３生は最終進路決定です。生徒一人ひとりに最適な学校をご提案します。

保護者の皆様、いつもお世話になっております。

体が大きい人が強いのではありません。体の小さい人が弱いのではありません。
舞の海関という力士は、体がとても小さいというハンデがありました。でも、様々な妙手を駆使して体の大きい力士を倒し、角界を沸かせました。
このように相撲では、大きな人が、小さな人に負けることが、よくあります。
体と体をぶつけ合う力勝負の格闘技ですから、体が大きい方が圧倒的に有利であるように思えますが、そうではないのです。
ある相撲解説者が言っていました。
「体が大きい人は、自分は強いと錯覚して、稽古を怠けてしまう。だから怠け者の大きな力士が、努力家の小さな力士に負けることが、しょっちゅうある」
人は、才能に恵まれて優位に立っていると、努力がほどほどになってしまいがちです。
逆に弱点があるからこそ、斬新なワザや工夫が編みだされることが多々あります。

学歴がないから、偏見のない目で評価してくれる人に出会えた。
病弱だから、人の何倍も頭を使うことで成功をつかんだ、等々。
要は、選択の問題なのです。
「ハンデがあるから無理だ」と考えて、あきらめるか。
「ハンデがあるからできることがある」と前向きにチャレンジするか。

すべての伝説は逆境から始まる。
このことは歴史も証明してくれています。
１５９０年、ときは戦国時代。最後まで豊臣秀吉に抵抗していた小田原の後北条氏を滅ぼした徳川家康。
家康はこれをきっかけに昇格することになり、ご褒美に秀吉から領地をもらうことになります。場所は関東地方の関八州。
しかし、そこは荒れ果てた、ど田舎でした。
しかも、それと引き換えに、家康が長年所領として管理していたホームグラウンド、駿河、遠江、三河、甲斐、信濃の５カ所を取り上げられてしまったのです。
えええーーー。何でーーー。それは昇格といえるのでしょうか？秀吉のために頑張ったら、そのご褒美だといって自分のホームグラウンドをすべて取り上げられ、代わりに与えられた土地は、荒れ果てた田舎。
家康は秀吉に迫ります。
「関八州だと！！？？？？　ＯＫ。行ってきま～す♪」
家康は素直に関八州に下るのです。
考えてみてください。あなたが家康の立場だったら･･･。
ここ、普通、激怒する場面ですよね？当時、関八州は、ひどく荒れ果てていました。
どうしようもない湿地帯で洪水の巣だったといいます。ジメジメしていて、足を踏み入れれば地面からじわーと水が染み出してくるような湿地帯。そんな場所に追いやられたのですから･･･。
ところが、家康はグチを言うことなく、その荒れ果てた土地を黙々と改良していきます。
湿地には川や運河を掘って水が海に流れやすいようにし、遠浅の海を利用して新たに海を埋め立てていきます。
はい。その場所こそ、後に世界最大の都市になる江戸です。これが、大都会東京の歴史の原点なんです。

１７００年頃、当時ヨーロッパ第一の都市であるロンドンの人口が約７０万人です。
ニューヨークは約２万人。一方、江戸は約１００万人。
この殺伐としていた関八州が、やがて世界一の巨大都市へ躍り出ることになるのです。
家康の前に現れた理不尽な「壁」は、家康を天下に導く「扉」だったのです。
江戸に左遷されたことは、ゼロから自由に世界最大の都市を設計するチャンスだったのです。

「重荷が人をつくる。身軽足軽では人は出来ぬ」by 徳川家康

苦痛を避けてばかりいると、人の痛みも想像できない大人になってしまいます。
だから子どもたちに教えなければ。
「失望」から「希望」が生まれること。
「逆境」から「逆転」がはじまること。

理不尽なことが目の前に現れたら、こうつぶやこう

「このときを待っていた」･･･と。

塾長　山田　大介